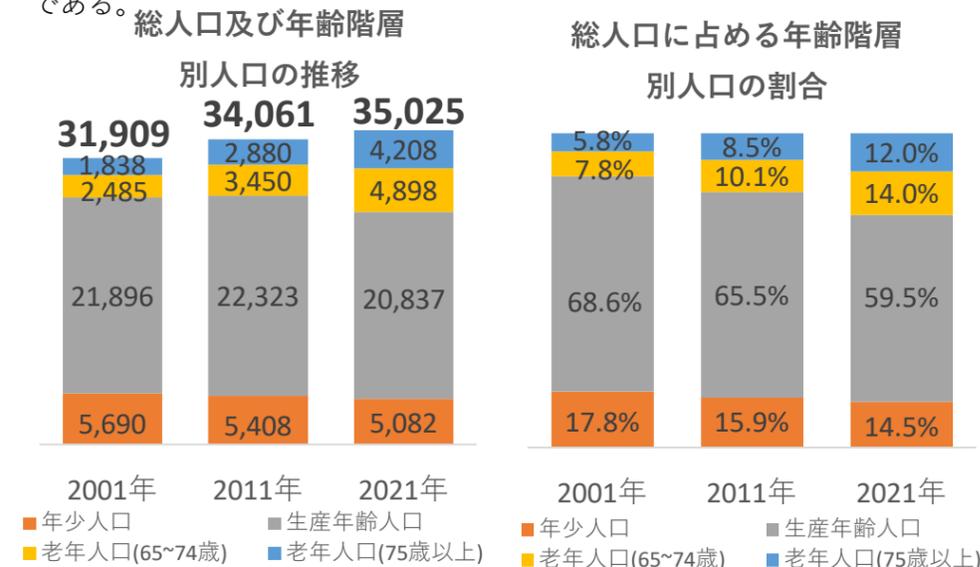


第2次広陵町人口ビジョン概要 (1)

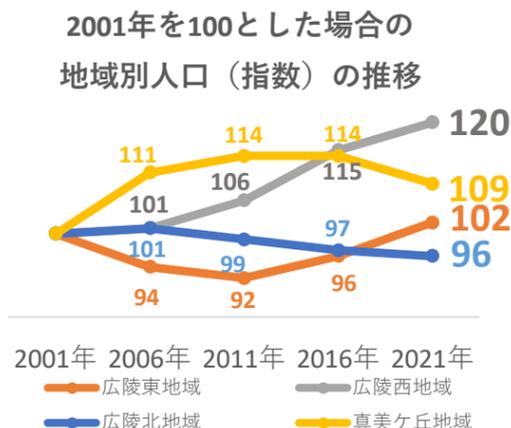
○総人口及び人口区分別の推移(資料3 P6・8)

2001年から2021年にかけて当町の総人口は9.8%増加している。また、2021年の総人口に占める65歳以上の人口割合は約26.0%となっている。2021年1月1日現在の総人口に占める老年人口の割合は、県内39市町村の中でも38番目に位置し、県内において、当町は若い自治体であることが特徴である。



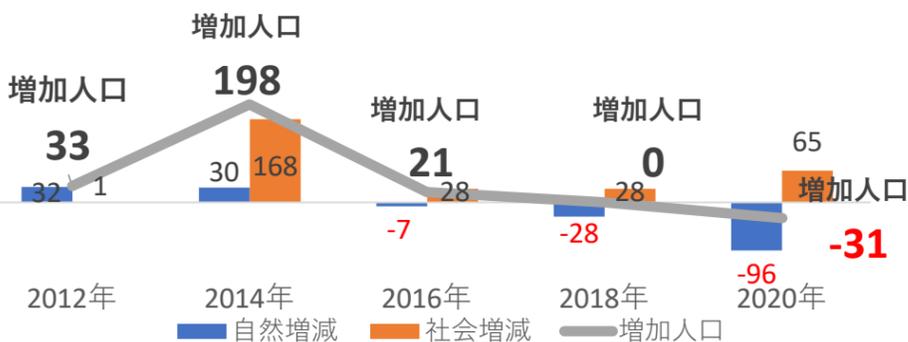
○当町の地域別人口(指数)の推移について(資料3 P13)

2001年から一貫して増加している地域は広陵西地域のみであり、真美ヶ丘地域は2016年、広陵北地域は2006年がピークとなっている。また、広陵東地域は2011年から増加している現状である。



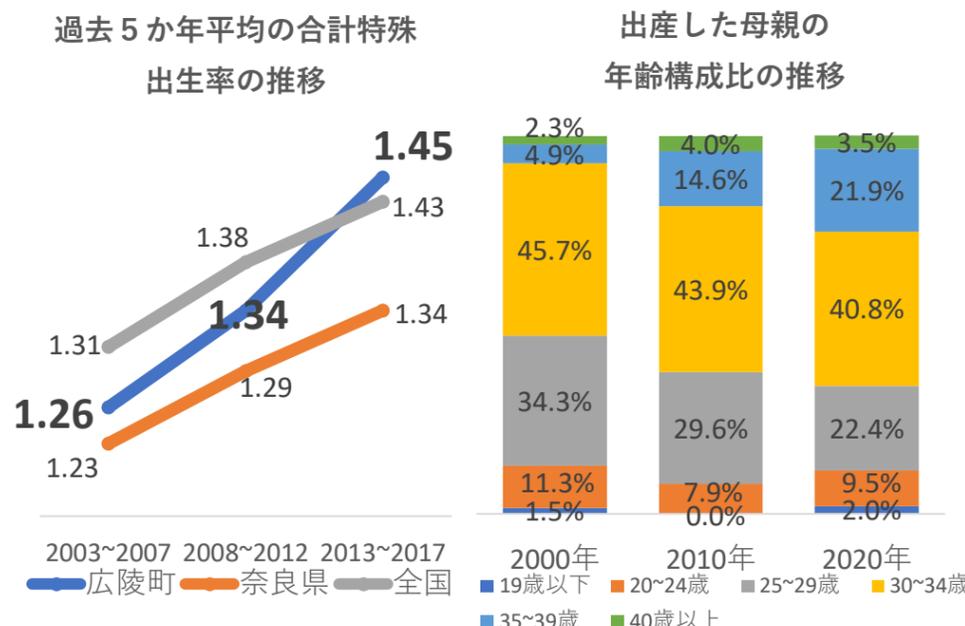
○自然増減及び社会増減について(資料3 P14)

2012年から2014年にかけて、自然増減はプラスであったものの、以後、高齢化の進展等を背景にマイナスとなっている。社会増減は、2014年以降、低水準であるもののプラスで推移している。増加人口も2018年には0となり、2020年にはマイナスに転じている現状である。



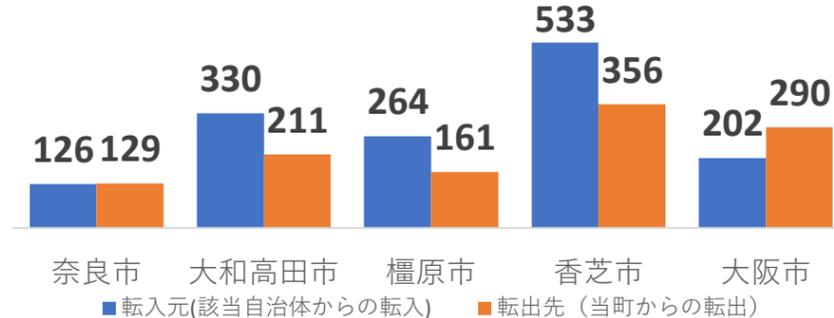
○合計特殊出生率及び出産した母親の年齢構成比の推移(資料3 P17・18)

過去5か年平均の合計特殊出生率の推移は伸びており、全国及び奈良県平均よりも高い現状である。また、出産した母親の年齢構成比の推移をみると、出産の高齢化が進んでおり、30歳代の出産割合が高くなっている。



○転入転出先状況(資料3 P25)

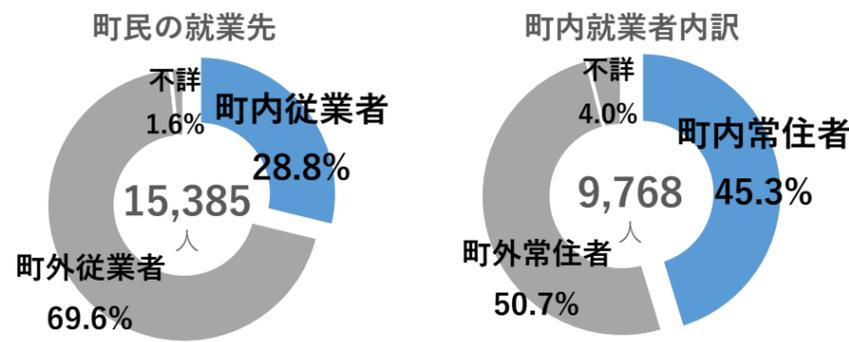
2017年から2019年までの当町への転入及び当町からの転出先TOP5は奈良市、大和高田市、橿原市、香芝市及び大阪市となっており、転出入ともに、香芝市が一番多い結果となっている。また、香芝市の他に、大和高田市や橿原市など、近隣からの転入が多い現状である。



○通勤の状況(資料3 P28)

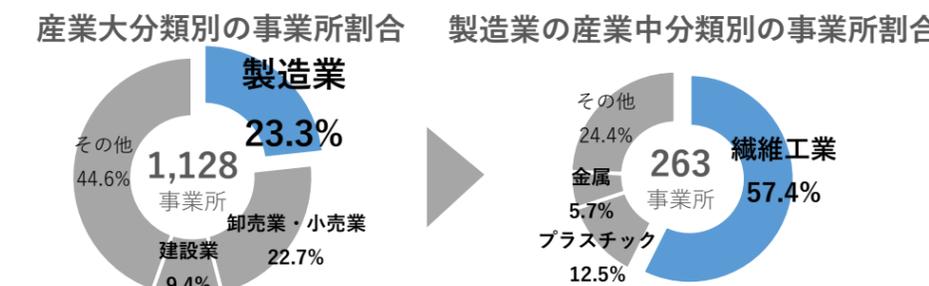
2015年実施の国勢調査結果によると、広陵町民の就業者の内、69.6%が町外へ働きに出ており、大阪市が一番多く、全体の15.8%と突出していることから、ベットタウンという地域特性がみられる。

広陵町内で就業する就業者の内、50.7%は町外の方であり、多い順に、香芝市、大和高田市、橿原市となっている。



○町内の産業構造(資料3 P31・32)

2014年実施の経済センサス結果によると、当町の産業大分類別の構成比をみると、製造業が一番多く、製造業の内訳(産業中分類別)の構成比をみると、日本一の生産量を誇る靴下製造業が含まれる繊維工業が約60%を占めている現状である。



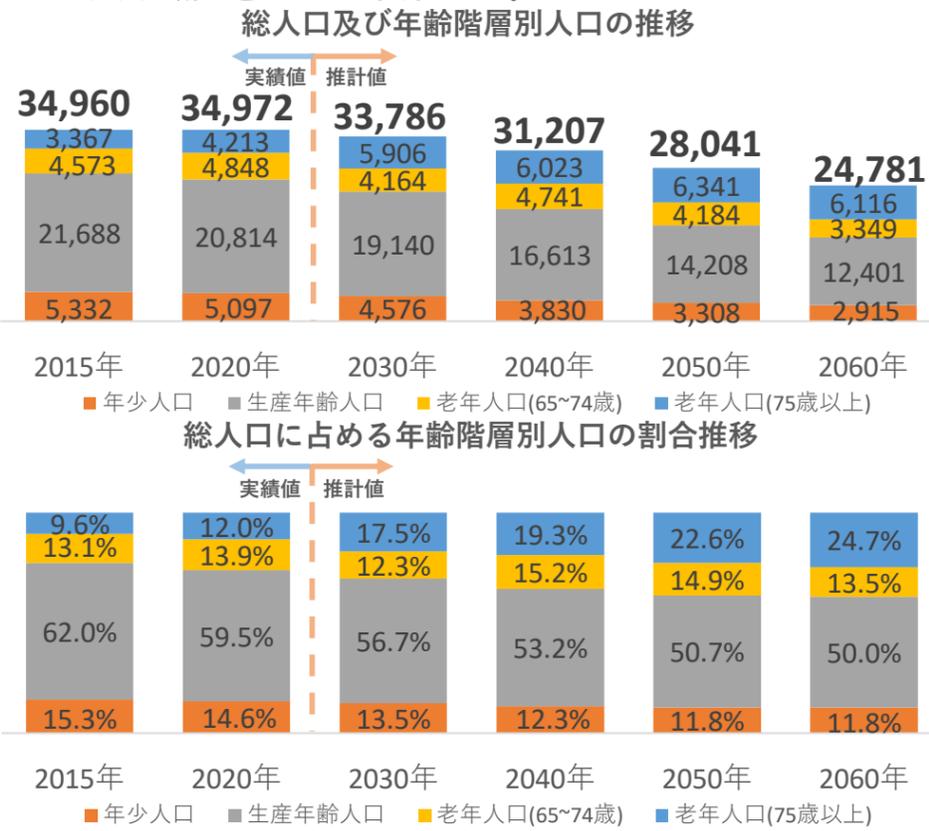
○男女別の就業率(資料3 P36・37)

当町を含む県内10市町村と男女15歳以上の就業率を比較すると、双方とも一番高い結果となっており、労働力率についても同様に一番高く、相対的に働く意思を持った住民が多いことがわかる。



○将来人口推計(コーホート変化率法)(資料3 P42・43)

当町の人口減少は2030年頃から本格的な減少局面を迎え、2040年頃に65歳以上の人口はピークを迎える。また、2050年頃には当町の総人口は3万人を割り込むことが予測される。



第2次広陵町人口ビジョン概要 (2)

○第2次広陵町人口ビジョン策定の背景

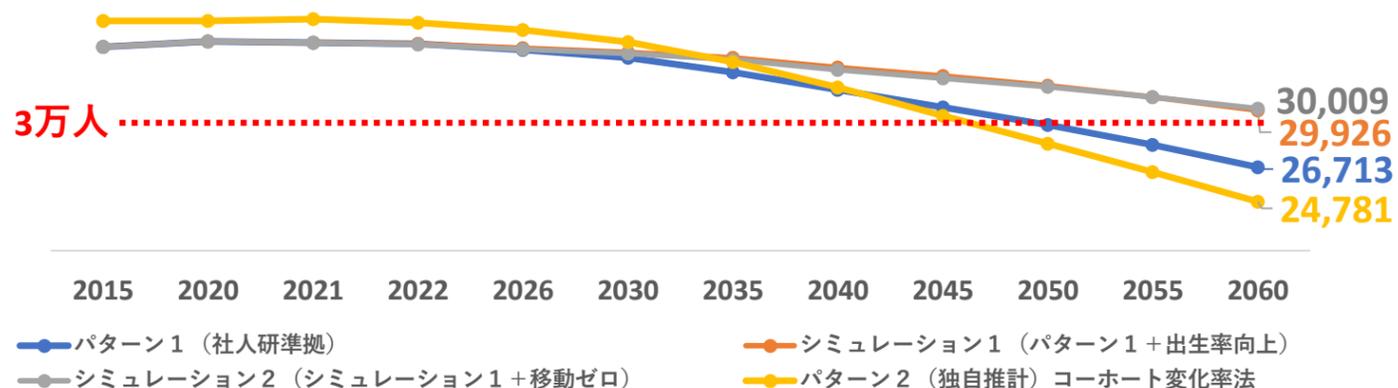
第4次広陵町総合計画後期基本計画及び第1次広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間が今年度で終了し、次期計画・戦略を策定中であり、この策定内容も踏まえ、近年の人口動向や最新の人口推計等を基に第1次広陵町人口ビジョンを改訂し、第2次広陵町人口ビジョンを策定する。

○将来人口推計方法 (資料3 P40)

今回策定する第2次広陵町人口ビジョンは第1次広陵町人口ビジョン時の推計手法と下記パターン2を追加し、合計4つの手法で将来人口を推計した。

結果として、2060年の人口は、パターン1及びパターン2では、3万人を大きく下回ることとなり、シミュレーション1では3万人にギリギリ届かず、シミュレーション2では3万人を超える結果となった。

パターン1	国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口(平成30年)」に準拠(基準人口は国勢調査)
シミュレーション1	仮にパターン1(社人研推計準拠)において、合計特殊出生率が令和22(2040)年までに人口置換水準程度(2.1程度)まで上昇すると仮定した場合のシミュレーション
シミュレーション2	シミュレーション1に加え、(直ちに)移動(準移動率)がゼロ(均衡)になることを仮定した場合のシミュレーション
パターン2 (独自推計①)	(コホート変化率法)同じ年に生まれた人々の集団について、過去の実績人口の動向から「変化率」算出し、それに基づき将来人口を推計(基準人口は住民基本台帳)



○第2次広陵町人口ビジョンに掲げる目標 (資料3 P47)

第2次広陵町人口ビジョンに掲げた2060年に総人口3万人の目標達成のため、第5次広陵町総合計画基本計画編で掲げている6つの基本目標のうち、人口減少の克服と地域の活性化に向けた分野横断的かつ重点的・優先的に推進していく施策を重点プロジェクト(第2次広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略)として位置付け、3つの目標を掲げた。また、この目標について、広陵町総合計画審議会部会において審議を行い、決定した。

3つの目標

- 目標1 次世代が担う子どもが輝けるまち
- 目標2 地域が活性化するまち
- 目標3 生活基盤が充実したまち
誰もが安全・安心して暮らせる充実したまち

第5次広陵町総合計画 (重点プロジェクト基本目標1から3) の実行及び目標達成

2060年に3万人を維持

○3つの目標実現による将来人口の展望 (資料3 P48・49)

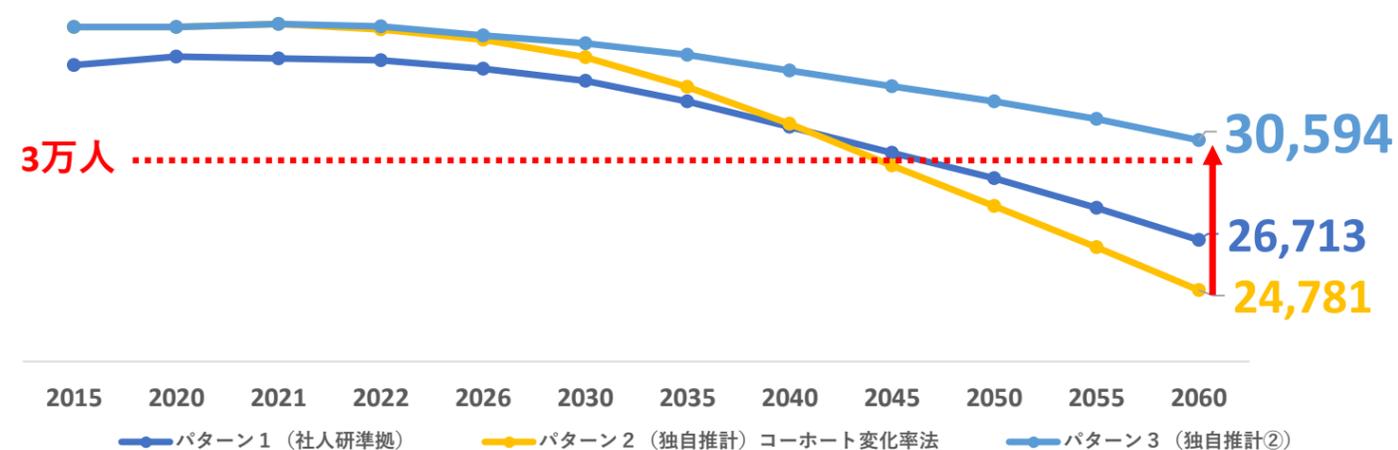
第5次広陵町総合計画(重点プロジェクト基本目標1から3)を着実に推進し、20歳から39歳の若年人口を中心により多くの人々から「住み続けたい・住んでみたい」と選ばれる魅力のあるまちの実現を目指すことで、令和22(2040)年までに合計特殊出生率2.10を達成するとともに、純移動率を均衡(ゼロ)させ令和42(2060)年において人口3万人台が維持されることを将来展望(パターン3)として設定する。

パターン3 (独自推計②)	(コホート要因法)シミュレーション2の推計条件に準拠しつつ、住民基本台帳人口(令和3年8月31日時点)ベースで算出
------------------	---

パターン3では下記合計特殊出生率を使用

2022年	2026年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
1.45	1.59	1.59	1.85	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10

○パターン3を追加した将来人口推計



○パターン3の年齢階層別人口の推移

